

立命館大学大学院

教職研究科

実践教育専攻

教職大学院

2023

Graduate School of
Professional Teacher Education

Major in Teaching Profession
and Educational Practices

連携機関

京都府教育委員会 | 京都市教育委員会 | 滋賀県教育委員会 | 大阪府教育委員会 | 大阪市教育委員会

立命館大学の教員養成の実績と 総合大学の特色を活かした 教職大学院

立命館大学では「自由と清新」を建学の精神とし、「平和と民主主義」を教学理念としています。この建学の精神と教学理念に基づいた、総合大学としての多様で、高度な学びを活かした教員養成に取り組んでいます。立命館大学が目指してきたものは、国際性・人間性豊かな教養人としての資質と専門職業人としての能力を備えた教員の養成です。

教育系学部を設置していない立命館大学ですが、教員養成分野では、全国の私立大学の中でトップクラスの実績を積み重ねており、これまで全国各地に数千名の教員を輩出してきました。最近では、毎年、300名近くの正規採用教員を輩出しています。

立命館大学では、1993年に全国に先駆けて「教職センター」（現在は教職支援センター）を設立し、教職を志望する学生のサポート面も充実しています。また、2006年には「立命館学校教育研究会」を設立し、立命館の校友教職員をはじめ、教育活動に関わる方々を会員として、教育実践の交流や最新テーマについての講演会など、現職教員への学びの場も提供してきました。

このような立命館大学の教員養成の実績と到達点を土台として、さらに、大学院レベルでの教員養成の充実をはかるために、2017年4月に大学院教職研究科（教職大学院）を開設しました。スーパーグローバル大学に認定された総合大学の特色を活かし、府県を超えた5つの教育委員会や立命館学園の附属校と密接に連携することによって、立命館大学大学院教職研究科（教職大学院）は、全国に例のない特色ある教職大学院として展開しています。

2023年度からの新カリキュラムによる さらに進化した教職大学院

教職研究科ではこれまでの教学の総括を踏まえ、さらに、新学習指導要領の導入、「令和の日本型学校教育」の構築に向けた学校制度・教員養成制度の改革の方向性などの最新事情を加味し、さらなる教学改革の検討を重ねてまいりました。

2023年度からは新たなカリキュラムを展開し、2年間を通した院生指導の一層の充実や、教科指導力の向上、教員採用試験対策の強化、オンライン受講導入による現職教員が学びやすい環境づくりなどの様々な取組を充実させることによって、引き続き、新しい学校づくりの中核を担う、多くのリーダーを輩出する教職大学院を目指します。

ごあいさつ

立命館大学大学院教職研究科
研究科長

森田 真樹



立命館大学大学院教職研究科は、2017年4月、西日本の私立大学単独としては初めての教職大学院として開設されました。京都府、京都市、滋賀県、大阪府、大阪市と、府県を超える5つの教育委員会の連携協力によって運営される教職大学院であることも全国で初めての試みです。さらに、教育学部を母体としない独立研究科であるため、開放制教員養成を重視し、一般学部からの進学者が多いことを前提に設計していることも本研究科の大きな特長です。

2019年には、独立行政法人教職員支援機構の近畿地区の拠点としての役割を担う、独立行政法人教職員支援機構立命館大学センターを本研究科に開設しました。各教育委員会と連携しながら、高度な教員研修プログラムを開発・実施していますが、本研究科院生は、教員研修プログラムにも参加することができ、学びをさらに深めることができます。

近年のコロナ禍によって、学校教育の「当たり前」を改めて問い直すことが求められています。また、いじめや不登校など複雑化・深刻化する教育課題、「令和の日本型学校教育」の構築、グローバル化への対応など、厳しい課題と急速な学校教育の変化に対峙するために、教職大学院でより専門的に学ぶことは、これからの教師には必須となるでしょう。そこでは、教育における不易と流行を見定め、不易の中に流行を組み入れることができる知見を見いだしながら、各教員が「個」としての資質能力を高めるだけでなく、「チーム」や「学校」として対応できる資質能力を獲得することが不可欠となります。

立命館学園の建学の精神である「自由と清新」、教学理念である「平和と民主主義」を体現し、立命館憲章に掲げられている「確かな学力の上に、豊かな個性を開花させ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める」という理念は、立命館大学の教員養成の理念でもあります。このような理念のもと、本研究科は、16学部21研究科を有し、スーパーグローバル大学に選定されている総合大学の教育資源を最大限に活用して、教育の本質を見極めながら、新しい教育課題に対応し、「学校」のチーム力を高めることができる資質能力をもった教員の育成を目指します。

私立大学として全国有数の教員養成の実績をもつ本学が、教員養成・現職研修の高度化という要請に応えることは社会的使命でもあります。本研究科では、学部新卒院生には、自らが「地球市民」として活躍できる人間を志し、より高い資質能力をもった教員となるための指導・支援を充実させ、進路実現を図ります。また、現職教員院生には、これまでの実践を対象化し、理論と実践の往還・融合を図る主体としての力量を高め、多様な教育実践を組織的にマネジメントしていく方策を検討するための学びの場を提供します。

本研究科における協同の学びを通して、授業や学校づくりを担うチームのリーダーが育っていくことを期待しています。

教職研究科(教職大学院)は 教員養成分野の専門職大学院です。

学校現場は、いじめや不登校などの複雑化・深刻化する教育課題への対応、「主体的・対話的で深い学び」を実現する新しい発想での授業の実施、グローバル化課題への対応など急速な変化の中にあります。このような状況で教員にはより一層の高い指導力、実践力が求められており、その力を高めていくのが今後の教員養成・現職研修の中核を担うとされている教職大学院です。

教職研究科では大学院での授業に加えて、教育機関へのフィールドワークや長期の実習を行います。理論と実践を往還する学びが行われる授業や実習を通して、教員としてのより高度な資質能力を獲得することができます。



連携機関からのごあいさつ

京都府 教育委員会	現在、学校現場における教育課題は、複雑化・多様化しており、教員には、児童生徒に確かな学力と豊かな人間性を身に付けさせ、児童生徒一人一人の自主性や個性を尊重しながら、使命感と責任感を持って職務に励むことを期待されています。立命館大学大学院教職研究科におかれては、総合大学の多様な学びの環境を活かした教学の展開など、先進的な取組を進めておられるところであり、今後も、より高い専門性・資質能力を備えた教員の育成を図られることを期待しております。
京都市 教育委員会	「一人一人の子どもを徹底的に大切にする。」京都市の教育の理念です。 京都市教育委員会では、立命館大学教職大学院が目指す人間力ある教育実践者の養成の取組をしっかりとし、市立学校全体を大学院生の学びのフィールドとするなどの連携協力を進めています。 立命館大学ならではの優れた学習環境の下、学校現場に山積する教育課題に対応できる確かな理論と優れた実践力・応用力を兼ね備えた、子どもたちを徹底的に大切にする教員の養成に期待しています。
滋賀県 教育委員会	滋賀県では「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり」の基本目標のもと、子どもの力を引き出し、「夢と生きる力」を育むため、大学との連携等により研修・研究内容を充実させ、教職員の指導力向上を目指しています。 貴学の多様な学びの環境、特色ある教育内容を通して、確かな指導理論と実践力を身に付けた教員の教育現場での活躍を期待しております。滋賀県教育委員会といたしましても、貴学との一層の連携に努めてまいります。
大阪府 教育委員会	大阪府ではこの間、経験豊富な教員の大量退職が続く中、特に経験年数の少ない教員一人ひとりの資質向上をいかにして図っていくかが課題となっています。 貴学では、「確かな学力の上に、豊かな個性を開花させ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める」という理念の実現に向けて力を尽くしておられます。今後とも、『学校』のチーム力を高めていくことができる教員の育成に努めていただきたいと思います。
大阪市 教育委員会	大阪府は、こどもの貧困、急増する外国籍児童生徒への対応、学力課題や不登校の増加など、多様な課題をもっており、教員が幅広い知識をもち、実践に活かす資質能力が求められています。 立命館大学教職大学院は、臨床教育やグローバル教育など、現代的な課題に対応した学問領域が特色となっております。理論と実践を往還する学びをとおして、より高度な実践的指導力が養われることを大いに期待しています。

教職研究科の3つのポリシー

Diploma Policy

学位授与の方針

- 教職研究科は、学士課程における教員養成教育や教育現場での実践経験に基づき、教育活動に関する実践知の科学化と理論知の実践化について学際的に追究することにより、教育と学習の価値的な意義を深く理解し、社会的に要請される教育的課題に応える高度な専門的知識と実践的指導力を有するとともに、平和と民主主義の精神、地球市民としての資質を持った、人間力のある教育実践者の養成を目的とする。これを具体化するために設定した、以下の教育目標は、編成されたカリキュラムの各科目を履修し、本学教職研究科が定める修了要件に達することにより修得されたものとみなし、これをもって教職修士(専門職)の学位を授与する。
- 学習指導、生徒指導の両者について、バランスの取れた指導理論と実践力を獲得している。
 - 総合大学での学びを生かし、高い教科指導力と教科の専門性とともに、国際的に通用する課題解決型の教育実践力を獲得している。
 - 教育をめぐる激しい変化の中で生じる新しい教育課題に対応できる能力を獲得している。
 - 学級経営・学校経営の課題を組織の中で協働して解決に導ける力量を備え、新しい学校づくりの中核を担うリーダーとしての能力を獲得している。

Curriculum Policy

教育課程編成・実施の方針

- 教職研究科は、ディプロマ・ポリシーに示した教育目標達成のため、カリキュラムマップに示すように共通基本科目、専門実習科目、コース必修科目、コース共通科目から構成した、体系的性と整合性の担保された教育課程を編成する。
- 共通科目(基本科目)については、「共通基本科目」として区分し、原則として、学部新卒院生、現職教員院生が共通に学ぶこととする。しかし、両者の獲得している資質能力が異なる領域については、一部、別科目、別クラスを配置するなど、両者のニーズに対応する工夫を行う。また、学校現場や関連施設でのフィールドワークを組み入れて、理論と実践の往還を可能とする科目を配置する。
 - 教員としての総合的な力量を形成するため、特に若手・中堅教員に求められる、授業力、生徒指導力、学級経営力、学校マネジメント力などを育成する「共通基本科目」を配置し、コース科目でさらに深い学びが展開できるような科目を配置する。
 - 現場との深い関わりの中で実践的に学ぶ、充実した「学校における実習科目」を配置する。「学校における実習科目」は、「専門実習科目」として配置し、当該科目を教学の主要な柱として、学校現場での授業実践や授業担当以外の担任業務、生徒指導、特別活動等の実践と、その振り返りを組み合わせて展開する。
 - 立命館の特色を活かした「臨床教育」「教育方法・学習科学」「国際教育」の3コース(履修モデルとしてのコース)を設定し、それぞれの領域での高度な力量を獲得させる「コース必修科目」を配置する。
 - 最新の教育事情について精通し、あらゆる教育課題に対応することができる力量を備えた教員を育成するために「コース共通科目」を配置し、新しい学校づくりの中核を担うリーダーを育成する。

Admission Policy

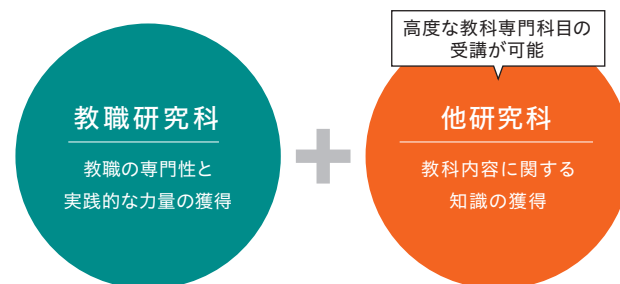
入学者受け入れの方針

- 教職研究科は、学士課程における教員養成教育や教育現場での実践経験に基づき、教育活動に関する実践知の科学化と理論知の実践化について学際的に追究することにより、教育と学習の価値的な意義を深く理解し、社会に要請される教育的課題に応える高度な専門的知識と実践的指導力を有するとともに、平和と民主主義の精神、地球市民としての資質を持った、人間力のある教育実践者の養成を目的とする。そのため、教職への深い理解と基本的実践力を備えた、次のような条件を満たす人材を求める。
- 学部での教職の学びを通して、教員としての基礎的知識や指導力をもち、さらに、教員としてより高い指導力、専門性、実践力を身につけたいという高い意欲と熱意をもっている学生。
 - 大きく変化する教育の中で活躍する教員として、新たな教育課題に対応していく力を、「理論と実践の往還」をはかる中で身につけたいという高い意欲をもった学生。
 - 教科指導、生徒指導、学級経営、学校経営などの課題を組織の中で協働して解決に導ける基本的力量を備え、新しい学校づくりの若手リーダー教員を目指す学生。
 - 教職経験の中で培った力量を、総合的にさらに高度化し、協働して取り組む新しい学校づくりの中核を担うリーダー教員を目指す現職教員。

教職研究科の5つの特長

1. 総合大学の多様な学びの環境を活かした教学展開

教職研究科では、16学部、21研究科を有する私立総合大学としての強みを活かして、大学内の豊かな教育資源を活用した総合的教員養成を展開します。教員採用に高い実績を誇る充実した教員養成教育と教職支援、他研究科での高度で専門的な学び、研究科を横断する各種プログラム、スーパーグローバル大学としてのグローバル化展開など、立命館大学全体の教育力を活かしながら、充実した教学を展開します。



2. 3コースからの教育課題へのアプローチ

立命館大学の特色を活かした「臨床教育」、「教育方法・学習科学」、「国際教育」の3つのコース（履修モデル）を設定しています。院生は各自の課題認識に応じて入学後にいずれかのコースを選択し、それぞれのコースでより高度な力量を獲得することを目指します。他方で、特定の学習領域にとらわれない「共通基本科目」や、「コース共通科目」などの幅広い学びを通して、各自の得意分野の資質能力と、教員として必要とされる総合的な資質能力の両方を向上することができます。

臨床教育

- 多様化する児童生徒の諸課題（いじめ、不登校、発達障害、児童虐待、少年事件等）の本質をとらえ、関係機関と連携した課題解決の方法や、思春期・青年期の児童生徒の理解と支援のあり方などに関して、実践的・理論的に探究していきます。関係機関と連携した保護者支援のネットワークのあり方などにも目を配りながら、学校、家庭、地域社会などをフィールドとして、臨床教育領域の諸課題について、幅広く検討していきます。
- 教育と人間形成への理解を深めながら、児童生徒の発達課題への知見を踏まえた生徒指導・教育相談、教師と児童生徒間関係、保護者支援などに関して、深い理解と高い指導力の獲得を目指します。

教育方法・学習科学

- 「学習」「学び」を多角的に分析し、より高度な教育実践のあり方を探究します。
- PBL※1、反転授業、アクティブ・ラーニングなどの双方向での協働的な学びや適切な評価方法を探究します。
- 「学習」「学び」を科学的に解明し、理論的枠組みに基づいた新しい教育実践に関して深い理解と高い指導力の獲得を目指します。

※1 PBL：Project Based Learningの略称。「課題解決型学習」

国際教育

- グローバル時代の教育のあり方を多角的に分析し、IB教育※2、グローバル教育、外国人児童生徒の教育、ESDやグローバル・シティズンシップ教育といったグローバル時代に必要とされている教育に関して深い理解と高い指導力の獲得を目指します。
- 英語教育や海外研修等に特化した国際教育ではなく、日常の教科指導や総合的な学習の時間等において実践可能な国際教育の内容や方法を探究していきます。
- 国際教育の視点から学校全体のカリキュラムをマネジメントできる力を含め、教科や学校種にかかわらず、国際教育を総合的に考え、実践できる教員を育成します。

※2 IB教育：国際バカロレア（IB: International Baccalaureate）機構が提供する国際的な教育プログラム。

3. グローバル時代の教育に対応できる教員の育成

「国際教育」コースでは、IB（国際バカロレア）教育、グローバル教育、外国人児童生徒の教育、ESD（Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育）といったグローバル教育領域でリーダーシップを発揮できる教員としての資質能力を向上することができます。「国際教育」について専門的に学ぶことができる教職大学院は全国でもめずらしく、将来的には本コースが国際教育の拠点としての機能を果たすことを目指します。



4. 3府県にまたがる5つの教育委員会との連携及び多様な連携協力校における充実した専門実習の実現

3府県（京都府・滋賀県・大阪府）にまたがるキャンパス立地の強みを活かし、5つの教育委員会（京都府教育委員会、京都市教育委員会、滋賀県教育委員会、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会）との連携を通じた新しい教員養成を実現します。公立学校と立命館の附属校をあわせて小学校8校、中学校14校、高等学校11校の連携協力校（2022年3月現在）を配置することで、院生の多様な問題関心とマッチングした専門実習を行うことを可能にしています。連携協力校での充実した専門実習（現職教員院生は、原則勤務校での実習）を展開し、「理論と実践の往還・融合」を実現します。



5. 小学校、中学校、高等学校すべての学校種に対応した教員の養成

小学校教員の養成を中心とする教職大学院も多い中で、本研究科に開設される主要教科の指導法科目の受講や、他研究科受講制度を利用し専門分野の大学院の科目を受講することによって、教科指導の専門性を高度化することができ、中学校、高等学校の教員養成にも対応しています。本研究科は複数の教育委員会と連携することで、高等学校の実習先も多く確保しており、高等学校での長期の実習も可能となっています。



理論と実践を往還・融合させるカリキュラム

本研究科では、公立学校と立命館の附属校を含む連携協力校の先進的な実践を活かしながら、教育の現場と大学院での学びを往還させることで「理論と実践の往還・融合」を実現するカリキュラムを編成し、確かな指導理論と実践力の両方を獲得します。

1年次から履修が始まる「教職専門研修」は、学士課程での教育実習とは異なり、連携協力校において、学習指導、生徒指導、学級指導、学校行事への参加、可能な範囲での校務分掌への関わりなど、学校現場での教員の全般的な業務に関わる実習を行います。実務を担う中で見出した課題を大学院の学修と往還させ、本研究科教員の指導のもとで、課題克服の方策を探究することで、高度な実践力を獲得することを目指します。

学部新卒院生は、連携協力校で実習を行い、1年次の夏期休暇を利用した「教職専門研修1」(3単位)、2年次春学期に実施する「教職専門研修2」(7単位)の10単位を履修します。現職教員院生については、本人の申請と審査によって、「教職専門研修」の一部の履修を免除する場合もありますが、「教職専門研修4」(3単位)は、現職教員院生全員が履修します。

カリキュラム構造

科目区分	共通基本科目 (6領域)	専門実習科目	コース科目			
			コース共通科目	コース必修科目 (1年次に1コースを選択、選択したコースのうちから6単位を取得する)		
				臨床教育コース科目	教育方法・学習科学コース科目	国際教育コース科目
単位の配分	20単位以上	10単位	12単位以上	6単位	6単位	6単位
	48単位以上 (現職教員院生で専門実習科目の一部を免除された者は、免除された単位数を修了に必要な単位数から減じる)					

学校現場の教育課題を包括的・体系的に理解し、教員としての高度な力量形成にとっての基盤をなす科目群です。教育課程、教科指導、生徒指導、学級・学校マネジメント、現代の学校と教師などについて幅広く学びます。本研究科では共通基本科目に独自領域として「国際教育に関する領域」を設けており、グローバル化が進む教育現場に対応できる力を獲得することができます。

共通基本科目一覧

第1領域：教育課程の編成・実施に関する領域
カリキュラムデザインの理論と方法
第2領域：教科等の実践的な指導方法に関する領域
授業デザインの理論と方法
教育方法・学習科学の理論と実践
第3領域：生徒指導、教育相談に関する領域
臨床教育の理論と方法
共生社会時代の生徒指導・教育相談実践演習
第4領域：学級経営、学校経営に関する領域
学校マネジメントの理論と実践
私立・公立における特色ある学校づくりの実践
共生社会時代の学級づくり実践演習
第5領域：学校教育と教員の在り方に関する領域
現代の学校・教師と教育実践A
現代の学校・教師と教育実践B
第6領域（独自領域）：国際教育に関する領域
国際教育の理論と方法

長期間の実習で、教科指導、生徒指導、学級経営等の実務に関わることによって、実践的な指導力の獲得を目指します。学校現場での体験にとどまらず、共通基本科目やコース科目で学修した理論知を実践化する方法や実習で得た実践知を理論化する方法も学びます。実習は、連携している5つの教育委員会(京都府教育委員会、京都市教育委員会、滋賀県教育委員会、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会)の協力のもと、連携機関内の公立小学校、中学校、高等学校に、立命館の附属校を加えた連携協力校で実施します。

専門実習科目一覧

教職専門研修1	教職専門研修3
教職専門研修2	教職専門研修4



実務家教員が語る教職大学院が指すものー学び続ける教員の養成を目指してー

立命館大学大学院教職研究科 准教授 伊藤 陽一



「量の上で理論書を読んでも、泳げるようにはなれない。」と言って「プールにいきなり飛び込んでも、泳げるようにはなれない。」ことは経験上の真実であり、この両者を往還するのが教職大学院での学びと言えます。教職経験のない学部新卒院生は学校現場での総計10週間に及ぶ実習とそれを元にした理論的な省察を通して、また、現職教員院生は自己の教育実践を様々な理論を活用・再吟味し視野を広げることを通して、教育に関する考察を深めることが可能となります。学びを深めるためには主体性と探究心が不可欠ですが、研究者教員と実務家教員のコラボレーションが皆さんを支えます。

目指すべき次世代の学校・教育現場では、既成の理論や経験則だけでは対応できない課題が次々と生まれています。これらの課題を的確に分析し、解決していくための手がかりと力量を身につけるために、私達と共に学びを深めていきましょう。意欲的で向上心のある方々の入学を心から期待しています。

コース科目は、「コース共通科目」と「コース必修科目」に区分して配置された科目です。本研究科では「臨床教育」、「教育方法・学習科学」、「国際教育」と3つのコース(履修モデル)を設けていますが、コースの学修だけではなく教員としての総合的な資質能力を向上させることを目指し、どのコースの院生にも履修が望まれる「コース共通科目」と選択したコースの内容を深める「コース必修科目」を配置しています。「コース必修科目」は、院生の問題関心やニーズに応じるため、他コースの科目の受講も可能としていますが、修了に必要な単位数には含みません。

コース科目一覧

コース共通科目一覧	コース必修科目一覧
教育実践高度化演習1※1	学力の理論と評価の実践
教育実践高度化演習2※1	授業開発研究
教育実践高度化演習3※1	国語科内容開発研究
教育実践高度化演習4※1	社会科内容開発研究
学校教育実践研究	算数・数学科内容開発研究
実践教育特殊講義	理科内容開発研究
学校マネジメントの理論と実際 (単位互換科目)※2	英語科内容開発研究
学校におけるICT活用	小学校英語教育実践研究
学校内外の連携による児童生徒支援	保健体育科内容開発研究
人間理解・対人援助の理論と方法	道徳科内容開発研究
インクルーシブ教育システムと 特別支援教育の新展開	
キャリア教育の理論と実践	
外国人児童生徒支援論	
国際交流プログラムデザインの 理論と方法	

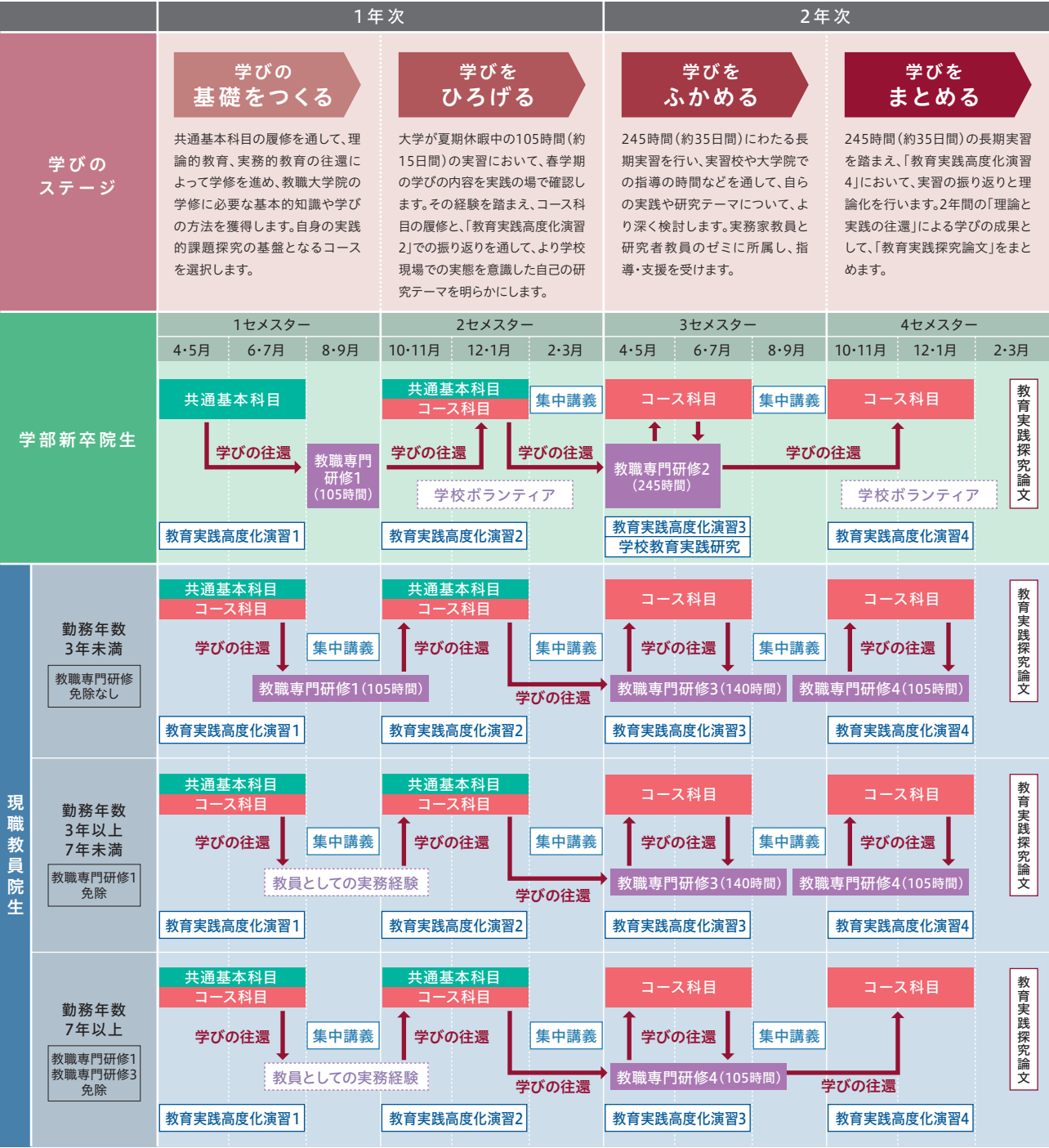
臨床教育コース
学校におけるメンタルヘルスの理論と実際
生徒指導上の諸課題の理解とその対応
SEL(社会性と情動の学習)の実践的アプローチの現状と課題

教育方法・学習科学コース
学習意欲の理論と実際
授業実践の高度化と授業研究
教科横断型授業の実践と課題

国際教育コース
開発教育プロジェクトの実践と課題
グローバル・シティズンシップ教育の構想と課題
IB教育の理論と実践

※1 コース共通科目のうち「教育実践高度化演習1」「教育実践高度化演習2」「教育実践高度化演習3」「教育実践高度化演習4」は必修科目です。
※2 京都教育大学大学院連合教職実践研究科との単位互換を予定しています。

2年間の履修イメージ



時間割イメージ

	月	火	水	木	金
1時限目 [09:00~10:30]	フィールドワーク、 学校ボランティアなど (連携協力校などの学校)				
2時限目 [10:40~12:10]					
3時限目 [13:00~14:30]					
4時限目 [14:40~16:10]	共通基本科目、コース科目の履修 (大学院)				
5時限目 [16:20~17:50]					
6時限目 [18:30~20:00]					

教職研究科では午前中は各講義でのフィールドワークなどを行う時間とし、午後を中心に講義を開講しています。また、長期履修制度によって学修する現職教員院生のために3年に一度は必ず必修科目が6時限目(18:30開始)に開講されるよう時間割を編成しています。

大学院での学びの集大成『教育実践探究論文』

論文テーマ事例

- 臨床教育コース
 - 児童の自己理解と自己表現に関する実践研究-「ふりかえりカード」による表現活動を通して
 - 私立一貫校における「性の多様性」教育導入の課題と展望-教員の意識向上を目指して-
 - 高等学校における不登校生徒支援スペース 有効なチーム支援の展開
 - 中学校における不登校支援の在り方-別室登校生徒に焦点を当てて-
- 教育方法・学習科学コース
 - 保健体育科を通した「自己有用感」の育み-TGfU (Teaching Games for Understanding) の活用-
 - 「文章形式を活用できる力」を育む説明的文章の学習指導研究-「比べ読み」・「説得性」の観点を用いて-
 - 「わかる学力」を測る評価方法の研究-解法アルゴリズムの可視化を通して-
 - 高等学校における歴史的思考を育成する授業モデル開発に関する研究-『National Standards for History』を参考にして-
- 国際教育コース
 - Globally-minded な気づきを促すカリキュラムのデザイン-教科連携を通した国際教育の実践に向けて-
 - 英語教育における CLIL 的な要素を取り入れたタスクの成立要件に関する研究-中学英語授業実践からの考察-
 - 総合的な探究の時間におけるグローバルシティズンシップ育成に関する研究-評価の改善を中心に-
 - 「真の国際人」を育む初等教育授業のあり方-アイヌの生き方・文化を見つめる授業を通して-



在学中から修了後も高度な教員研修に参加可能

質の高い教員研修プログラムを開発・提供する
「独立行政法人教職員支援機構(NITS)立命館大学センター」

2019 年 8 月、「独立行政法人教職員支援機構(NITS-National Institute for School Teachers and Staff Development)立命館大学センター」が開設されました。茨城県つくば市に拠点を置く「独立行政法人教職員支援機構(NITS)」は全国の教員研修の中核を担う組織ですが、「立命館大学センター」は、同機構の近畿地区の拠点となります。教職研究科が連携する京都府、京都市、滋賀県、大阪府、大阪市の教育委員会や各総合教育センター、立命館学園の附属校とともに、私立大学である立命館大学の特色を活かしながら、既存の枠組みにとらわれない、新しい発想で高度な教員研修プログラムの開発と実施に取り組んでいます。本研究科院生は、立命館大学センターの実施する最先端の教員研修プログラムに参加し、教職の学びをさらに深めることが可能です。



院 生・修了生からのメッセージ

(取材は2021年度時点のもの)

谷口 いち子さん

臨床教育コース 2年次生
大和大学教育学部出身

私は幼い頃から教師を目指してきましたが、授業・担任の業務・分掌の仕事など自分に本当にできるのかと不安がありました。また、大学3年生の教育実習で、私には知識も経験も足りないと感じ、算数・数学教育や生徒との関わり方についてより深く研究するため、本研究科を志望し、出身大学との協定校入試で合格しました。

大学院に進学し、授業だけでなく、学部新卒院生の意見や現職教員院生の経験や思いを交流する機会も多くあり、私の中の価値観や教師に対する思いが大きく変化するきっかけとなりました。また、私は立命館附属校の「教職大学院生講師」として中学・数学科を担当しています。学業と勤務の両立は大変ですが、大学院で学んだことを中学校の授業や生徒との関わりにすぐに活かすことができ、自分を高めることができました。失敗もありましたが、漠然としていた目標や方法が学びを通して明確なものになってきています。大学院での生活はきっとあなたを成長させてくれます。一緒に自分に合ったやり方を探していきたいと思います。

芝山 将至さん

国際教育コース 2022年3月修了
岐阜県中学校教員

私が大学卒業を控える頃は、ちょうど「学び続ける教師」という言葉が声高に叫ばれ始めた時でした。この言葉と向き合ったとき、私は何を学び続けたいのかという思いに直面しました。そこで、自身の学び続ける軸や指針となるものを持ちながら子どもたちの前に立ちたいと考え、教職大学院への進学を決意しました。「学び続ける教師」という言葉と向き合う二年間の中で、それを体現する現職院生の姿や夜遅くまで白熱した議論を交わした学部新卒生の仲間たち、自分の知らない知識や学問と出会わせてくださった先生方、そして学び続けたいと思えるものに出会えた教職大学院での時間は私にとって大きな宝となりました。教育に対する思いや目標があれば、教職大学院の環境とそこで過ごす時間は、その解決や達成に向けて、あなたの背中を力強く押してくれます。自ら行動を起こし、教職大学院での貴重な時間と経験の中で多くの知識や体験に出会ってください。応援しています。

小谷 嘉孝さん

国際教育コース 2022年3月修了
滋賀県立高等学校教員

私は現役の教員として教職経験を積み重ねてきたのですが、それとは逆に目の前の仕事に追われて成長を感じられなくなっていました。打破するにどうすればよいかを考えた時に、理論的なものが自分の中にないことに気づき、入学を決意しました。勤務校での仕事と並行して学ぶため時間的には忙しかったのですが、それを上回る精神的な充実感を感じられていたため、あまり大変だとは思いませんでした。大学院での授業は、現代教育における課題を扱うことが多いのですが、そのほとんどに明確な答えがありません。今までの勤と経験だけに頼っていては、解決できないものが多いです。先生方の指導と助言に沿って理論に根拠を求め、他の院生たちとどうすべきか、何ができるかを具体的に検討していきます。単に知識をアップデートしたというよりは、未知の課題を解決していくために必要な姿勢や態度を身につけることができたと感じています。学ぶ楽しさ、他の院生と目標を共有する喜び、先生方の厳しくも温かい指導等、みなさんが求めるものが教職研究科にあると確信しています。ぜひ一歩を踏み出してください。

長澤 香澄さん

臨床教育コース 2018年3月修了
京都市立小学校教員

私は教員になろうと決意した時期が遅く、教壇に立つ前にきちんと教育について学びたいと思ったこと、他校種免許取得のための履修をしないと考えたことから教職研究科へ進学しました。小学校免許取得のために学部の課程と研究科の課程を並行して履修するので、授業は他の院生の2倍近くありましたが、その分様々な視点から学ぶことができました。教職研究科では、基礎的な理論から最新の動向まで、広く深く学べます。実際のクラスのような集団で2年間学ぶことで、教員を目指す者としての立場と学級にいる一人としての立場を一度に経験していたように思います。学びの集大成として教育実践探究論文を執筆することで、新たな発見もありました。教職研究科の魅力のひとつは、大学院生・教員・職員が一体となっているアットホームな研究科であることです。かけがえのない仲間と出会えたこと、温かく迎えてくれる場所があることが、今も心の支えになっています。教職研究科で、かけがえのない学びや仲間に出会ってみませんか？

● 1年次のとある1日



① 8:30~12:30 教職大学院生講師として勤務 {立命館中学・高等学校}

立命館附属校で中学2年生の数学科講師として勤務しています。先生方の授業や生徒との関わり方、職員室での様子など勉強になることがたくさんあります。その学びも活かしながら授業実践を重ねています。

② 14:40~17:50 大学院の授業(4,5時限) {朱雀キャンパス}

午前中の勤務が終わると、大学院に移動し、授業に出席します。グループに分かれて、ディスカッションやプレゼンテーションをする機会が多く、自分の考え方や視野が広がります。

③ 17:50~18:30 休憩時間 {朱雀キャンパス}

5限目と6限目の間に40分の空き時間があるので、次の授業の準備をしたり課題をしたりします。院生同士でたわいもない会話をしていることもあります。

④ 18:30~20:00 大学院の授業(6時限) {朱雀キャンパス}

教職研究科には、3つのコースに分かれて学ぶ授業があります。私は臨床教育コースで学び、生徒を見る視点がとても増えた実感しています。

⑤ 21:00~ 課題、授業準備 {自宅}

文献などを読みながら、教職研究科の課題に取り組みます。また、中学校の授業準備をします。グループワークの課題や発問を考えるのは大変ですが、楽しみながら学ぶ生徒を思い出すと頑張ろうと思えます。

● 2年次のとある1日



① 8:15~16:30 校務支援 {公立学校}

研修でもお世話になった中学校で校務支援員として勤務しています。実習を終えた後も関わり続けることで大学院だけでは学べない実践的な学びを重ねています。

② 17:00~18:30 空き時間を活用

次の授業で発表がある時や自主ゼミで資料が必要な際はこの時間を準備時間に充てています。

③ 18:30~20:00 大学院の授業 {大学院}

校務支援やフィールドワークなどで得た実践的な学びを理論的に捉え直すことで学びを深めます。グループワークを中心に議論を重ね、仲間の新しい視点にも刺激を受けながら知識と学びを積み重ねています。

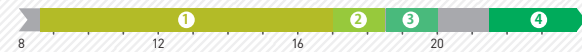
④ 20:00~22:00 自主ゼミ {大学院}

有志の院生で自主ゼミを立ち上げ、他コースの学びを共有するとともに、院生それぞれが研修で得た気づきのリフレクションを行うワークショップなどを聞き、授業以外でも学びを広げています。

⑤ 23:00~ 課題作成と研究 {自宅}

1日の学びを振り返りながら、授業で課された課題に取り組みます。グループ課題が課された場合はオンラインで取り組むことも。研究に関わる文献購読や論文の執筆に充てることもあります。

● 2年次のとある1日



① 8:30~17:00 授業、採点、進路指導など {勤務校}

教科指導を中心に、空き時間には授業準備やテストの採点、宿題のチェック等を行います。校務分掌は進路指導課に所属しており、大学入試や就職試験に向けての面接指導、生徒や保護者向け進路ガイダンスの企画・運営等も重要な仕事です。学校は教科や校務分掌といったチームで動くことも多く、教員間の連携を大切にしています。

② 17:00~18:30 空き時間の有効活用 {大学院へ移動}

勤務校から大学まで電車で約1時間半かかります。電車の中は、考えを整理したり文献を読んだりするのに最適な時間です。移動時間によりアイデアが浮かんできて、忘れないようにすぐにメモをとることもよくあります。

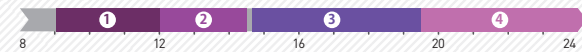
③ 18:30~20:00 大学院の授業 {大学院}

多くの授業で取り入れられているグループワークは、特に有益です。ものごとを俯瞰して見る姿勢が身につく、さらに視野を広げられます。学部新卒生の、学んだ理論や方法をすぐに使おうとする前向きな態度や、現職教員からは出てこないであろう子どもに近く寄り添う意見には、大きな刺激を受けます。私立と公立、小・中・高の校種と、様々なところから院生が集まっており、それだけ気づくことも多いです。

④ 21:30~ 帰宅、レポート作成 {自宅}

大学院のレポート作成等を行います。私の場合、最初に思いつくことをすべて書き出し、それらを深めたりつなげたりしながらまとめていきます。漠然とした思いが整理され、考えが明確になっていくのを感じられます。

● 1年次のとある1日



① 9:00~12:00 産業社会学部子ども社会専攻の授業 {衣笠キャンパス}

小学校免許取得のため、子ども社会専攻の授業を受けていました。大学生の中で授業を受けるので、気が引き締まります。大学院での学びと繋がる部分も多く、勉強になりました。

② 12:00~14:30 移動・昼食・休憩等 {朱雀キャンパス}

衣笠キャンパスから朱雀キャンパスは自転車です。移動の前後で昼食を取り、キャレムに戻って課題をしたり仮眠を取ったりしていました。

③ 14:40~19:30 大学院の授業 {大学院}

少人数の講義は、まるでひとつの学級のようなです。グループディスカッションはとても楽しいです。

④ 19:30~ 課題や教員採用試験対策、友だちとおしゃべりなど {朱雀キャンパス}

小学校免許取得のための課題や教職研究科の課題に取り組みました。教職研究科の課題は、個人で取り組むものもありますが、グループで進めるものもあります。共同研究室で和気あいあいと作業をしていました。朱雀キャンパスは朝早くから夜遅くまで開いているので、心ゆくまで学習や友だちと意見交換や雑談をすることができました。管理してくださっている方々に感謝です。

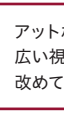
授業を受けた院生の声



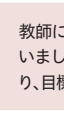
学校現場での長期研修では、学部時代の実習だけではわからなかった校務分掌や学校運営に関わることができ、有意義でした。



重要と思いつつ、これまで教育法規をたどることは難しく感じ、避けていました。しかし、その目的を丁寧に、また多くの資料を配布いただいたことは、私の今後の貴重な財産となりました。



アットホームな雰囲気、自由に議論ができる授業でした。広い視点から教育をとらえる機会を頂き、感謝しています。改めて、教職大学院で学ぶ必要性を感じました。



教師になるにあたって、これまで漠然とした課題意識を持っていましたが、教職大学院で学ぶことにより、それが明確になり、目標を達成するための方法が明らかになりました。



キャリア教育が選択や決定だけでなく、人生、生き方を築いていくために必要な教育なんだと実感できる授業でした。今後の大学院での学び、現場での実践だけでなく、自分自身を振り返ったり問い直ししたりする大変貴重な機会であったと思いました。



学校現場からはなれる不安がものすごくあったのですが、現場にいたら学べなかったことをたくさん知ることができました。時間が過ぎていく中で立ち止まらなければ気づかなかったことが、授業の中でいろいろとありました。

Q & A

Q1 教職研究科の時間割について教えてください。

A 教職研究科では午前中を各講義でのフィールドワークの時間とし、午後を中心に講義を開講しています。また、長期履修制度によって学修する現職教員院生のために3年に一度は必ず必修科目が6時限目に開講されるよう時間割を編成しています。

Q2 現職教員院生も学校での実習をするのですか。

A 現職教員院生も学校での実習を行います。ただし、一定期間の実務経験のある現職教員院生については本人の申請と教職研究科での審査を経て「教職専門研修」の一部の履修が免除されます。詳細はP.16「現職教員院生へのサポート」をご覧ください。

Q3 入試の前に説明会や授業見学に参加したいのですが。

A 教職研究科の説明会、授業見学については開催日が確定次第教職研究科のHPでご案内していますのでぜひご参加ください。説明会はオンラインで開催されるものもあります。

Q4 研究者教員と実務家教員とはどのような役割をもつ先生ですか。

A 実務家教員とは学校現場等での実務経験があり、高い実績のある教員です。研究者教員とは研究分野を専門的に指導する教員です。研究者教員と実務家教員によるチームティーチングや実習での訪問指導により、理論と実践の往還がより確かなものとなり、教員としての実践的な力量を確実に身につけていくことができます。

Q5 入試の過去問題を見ることはできますか。

A 閲覧できます(筆記試験の問題のみ)。大学院入試情報サイト(<http://www.ritsumei.ac.jp/gr/exam/question.html/>)や立命館大学朱雀キャンパスの朱雀独立研究科事務室および各キャンパスの大学院課の窓口で閲覧することができます。

Q6 教育職員免許状がなくても教職研究科に入学できますか。

A 本学教職研究科では、学校種・教科を問わず、いずれかの教育職員免許状を取得していることが入学の条件となります。そのため教育職員免許状をお持ちでない場合は入学することができません。

教員紹介

教職研究科の専任教員



教授 | 荒木 寿友

担当科目

「授業デザインの理論と方法」、「道徳科内容開発研究」、「開発教育プロジェクトの実践と課題」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

教育方法、カリキュラム開発の観点から、国内においては主として道徳教育やワークショップ、ファシリテーションの研究、国外においてはミャンマーにおいて教員養成の研究実践活動を行っています。またリフレクションによって教師自身が教育実践やあり方を再構築していこうとする教師教育の研究活動も行っています。



教授 | 伊田 勝憲

担当科目

「共生社会時代の生徒指導・教育相談実践演習」、「共生社会時代の学級づくり実践演習」、「生徒指導上の諸課題の理解とその対応」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

臨床教育学・教育心理学の視点から、学習内容への主観的な価値づけと学習者自身のアイデンティティ形成との関係について研究しています。最近はいじめ重大事態の未然防止等、教育と法律・医療・福祉が交わるテーマにも関心を広げ、共生社会の実現に向けて、学校・教師に期待されるこれからの日常的教育活動の姿を探っています。



准教授 | 井戸 仁

担当科目

「教育方法・学習科学の理論と実践」、「共生社会時代の生徒指導・教育相談実践演習」、「学校マネジメントの理論と実践」、「生徒指導上の諸課題の理解とその対応」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

児童・生徒理解を進めて行くには、どのようなアプローチが必要なのか。学級経営はどうあるべきかということやQ-U検査を活用し、実践研究しています。また、教員が無意識に発する言葉や態度、行動等が予想しなかった大きな結果に結びついてしまう、ヒドゥンカリキュラム(隠れたカリキュラム)についても研究を進めています。



准教授 | 田中 博

担当科目

「カリキュラムデザインの理論と方法」、「私立・公立における特色ある学校づくりの実際」、「国際教育の理論と方法」、「算数・数学科内容開発研究」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

立命館の附属校で長年の教員生活を送ってきました。教科は数学です。スーパーサイエンスハイスクール事業に深く関わってきた経験から、「国際科学教育」を研究分野としています。立命館が持つ、豊富な国際教育手法を多くの先生方に学んでいただき、世界の舞台で活躍する子ども達の輩出につながってくればと願っています。



教授 | 菱田 準子

担当科目

「臨床教育の理論と方法」、「私立・公立における特色ある学校づくりの実際」、「SEL(社会性と情動の学習)の実践的アプローチの現状と課題」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

新しい学習指導要領では、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」が柱の1つとなっています。虐待を受けている子どもたちをはじめ、すべての子どもたちが幸せな人生を送る主体者となれるよう、学校教育や学校組織のあり方をポジティブ心理学やピア・サポートの理念・実践を通して追求していきます。

教授 | 森田 真樹
(研究科長)

担当科目

「国際教育の理論と方法」、「教科横断型授業の実践と課題」、「グローバル・シティズンシップ教育の構想と課題」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

グローバル時代の学校教育や市民形成は、どうあるべきで、どのような方法で実施することが望ましいのかについて、アメリカ合衆国の社会科教育、グローバル教育、多文化教育及び日本の国際理解教育などの分析を通して研究しています。また、私立大学を中心とする一般大学や大学院における教師教育のあり方についても研究を進めています。



准教授 | 伊藤 陽一

担当科目

「授業デザインの理論と方法」、「共生社会時代の学級づくり実践演習」、「授業実践の高度化と授業研究」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

チームとして機能する学校組織を創るためには、どのように学校経営・マネジメントしていくのか。その柱となるカリキュラム・マネジメントを土台として、授業改善(AL)・「学級づくり」について研究しています。特に新学習指導要領のポイントをおさえ、小学校社会科・特別活動・総合的な学習の時間について研究を進めています。

教授 | 井上 雅彦
(副研究科長)

担当科目

「カリキュラムデザインの理論と方法」、「国語科内容開発研究」、「授業実践の高度化と授業研究」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

言語による伝え合いを重視した国語科授業及びカリキュラムをどのように構想するのか。その際、学習者の学びをいかに評価するのか。また、アクティブ・ラーニングのあり方について、さらに力量ある国語科教員を育てるための教員養成カリキュラムについて研究しています。



教授 | 春日井 敏之

担当科目

「臨床教育の理論と方法」、「実践教育特殊講義」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

いじめ、不登校、発達障害、児童虐待等、教育・子育てを巡る課題に対して、実践と研究の融合を図り、担い手の育成や支援を進めていく必要があります。私は、いじめ、不登校・ひきこもりへの指導・支援を切り口に、子ども理解を土台にして、「思春期の人格発達と支援」「学校教育相談と開発的カウンセリング」「教師の自己形成・自己変容」をテーマに、教育・研究・実践を進めています。



教授 | 山岡 雅博

担当科目

「共生社会時代の生徒指導・教育相談実践演習」、「実践教育特殊講義」、「教育実践高度化演習」、「教職専門研修」他

研究内容

「いじめ」「不登校」「暴力行為」などの問題行動は減る兆しが見られません。これは社会問題であると同時に、当事者の子どもたちにとっては、かけがえのない子ども時代のための経験でしかありません。彼らを支え、育てる「指導」や「教師」に関する実践的な方法・理論を確立し、本質的な原因を探ることを目指しています。

教員コラムのご案内

教職研究科では、「子ども・教育・学校を語る」と題して、教員がリレー式で月に1回コラムを書いています。興味深い内容となっていますので、ぜひご覧ください！

掲載場所

教職研究科 HP ▶ 左メニュー ▶ 教員コラム ▶



教職研究科 授業担当教員 (2023年度担当予定)

教授 | 大友 智 (スポーツ健康科学部)

担当科目

「保健体育科内容開発研究」

教授 | 清田 淳子 (文学部)

担当科目

「外国人児童生徒支援論」

教授 | 中村 健 (経済学部)

担当科目

「学校内外の連携による児童生徒支援」

教授 | 中村 正 (産業社会学部)

担当科目

「人間理解・対人援助の理論と方法」

教授 | 山下 芳樹 (産業社会学部)

担当科目

「理科内容開発研究」

教授 | 湯川 笑子 (文学部)

担当科目

「小学校英語教育実践研究」
「英語科内容開発研究」

授業担当講師 | 石井 英真

京都大学大学院教育学研究科 准教授

担当科目

「学力の理論と評価の実際」

授業担当講師 | 井上 志音

灘中学校・灘高等学校 教諭
日本国際バカロレア教育学会 理事

担当科目

「IB教育の理論と実践」

授業担当講師 | 尾崎 拓郎

大阪教育大学 理数情報教育系・情報基盤センター 准教授

担当科目

「学校におけるICT活用」

授業担当講師 | 藤原 孝章

同志社女子大学現代社会学部 特任教授

担当科目

「国際交流プログラムデザインの理論と方法」

授業担当講師 | 三川 俊樹

追手門学院大学心理学部 教授

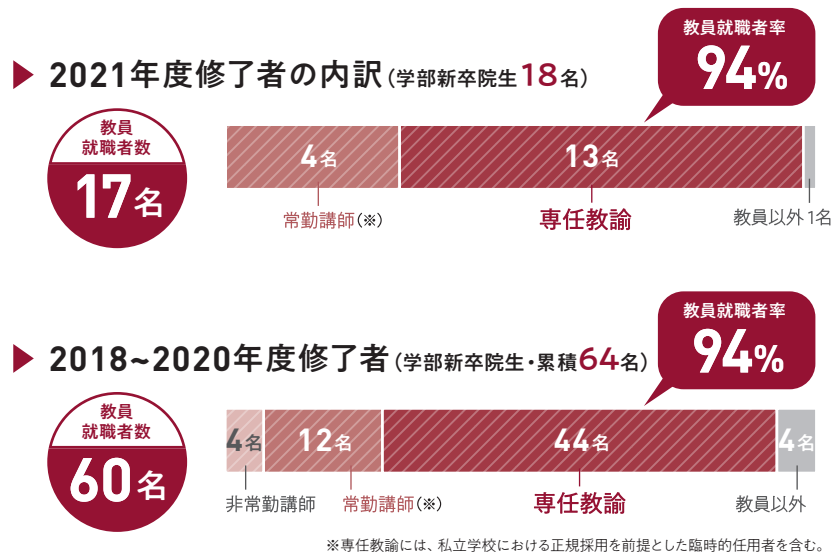
担当科目

「キャリア教育の理論と実践」

※教員および担当科目は
2022年3月時点での予定

進路状況

教員採用に確かな実績があります！



◆採用先の主な自治体

2021年度
京都市、滋賀県、大阪府、東京都、神奈川県、横浜市、岐阜県、三重県、兵庫県、福岡県、その他全国の私立学校

2018～2020年度
京都府、京都市、草津市、大阪府、大阪市、札幌市、栃木県、神奈川県、横浜市、石川県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、兵庫県、和歌山県、福岡県、その他全国の私立学校

◆校種

2021年度
小学校(5名)、中学校(10名)、高等学校(2名)、中高一貫校(1名)

2018～2020年度
小学校(5名)、中学校(27名)、高等学校(19名)、中高一貫校(9名)

就職のサポート

充実した教員採用試験対策を行います！

本研究科では学校現場に精通している実務家教員が中心となって、教員採用試験に向けて、きめ細かい進路指導・相談を行っています。また、教職研究科教員全員が、院生の自主ゼミをバックアップするなど教員採用試験に向けた準備を支援しています。

その他にも、立命館大学の教職支援センターでは、教職を志望する学生に教員採用試験対策講座を実施しており、教職研究科の院生も受講することができます。

さらに、教員採用試験では、教職大学院の院生を対象にした推薦制度を設けている自治体もあり、1次選考試験免除などの優遇措置を受けることもできます。このような教職研究科の豊かな教育資源を活用し、教員になる夢を叶えましょう。



教職研究科で取得できる教育職員免許状の種類

- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免許状
 - 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語、宗教
- 高等学校教諭専修免許状
 - 国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、書道、保健体育、家庭、情報、工業、商業、福祉、英語、宗教

※専修免許状の取得には、一種免許状を取得していることが条件となります。

「学校心理士」の受験資格取得が可能！

本研究科では、一般社団法人学校心理士認定運営機構の定める必要単位を履修し、大学院修了までに「学校心理学」に関する専門的実務経験が1年以上に達する見込み(学部新卒院生は専門研修10単位の履修で代替可)により、在学中に「教職大学院類型」で資格申請および試験の受験資格を得ることができます。なお、教員として専門的実務経験が5年以上ある方は「学校教員類型」での申請が可能です。(詳しくは一般社団法人学校心理士認定運営機構のホームページをご参照ください。)

現職教員院生へのサポート

2023年度からはオンライン受講で修了が可能に！

大学院で学びたいが、職場を離れることができないという悩みを持っている現職教員も多いと思います。そのような現職教員が、勤務しながら大学院に進学することができるよう、2023年度より長期履修制度を活用した現職教員は、オンライン受講による修了が可能となります(一部授業は対面実施)。その他、下記の様々な工夫により、現職教員院生が学びやすい環境を整備しています。



▶ 長期履修制度活用者を対象としたオンライン受講

「長期履修制度」を活用する現職教員院生は、夜間時間帯(6時限目18:30-20:00)に開講される科目のライブ配信をオンライン受講することが可能となり、3年間で大学院を修了できるようになります(ただし、一部授業は対面で実施されます)。このことにより、学外や遠隔地からでも授業に参加しやすくなります。

▶ 長期履修制度

長期履修制度とは、在学中に職業を有することにより、学修・研究時間を充分に取ることができず標準修業年限で修了することが困難な場合、標準修業年限(2年)を超え、在学年限(4年)の範囲内の期間において計画的に教育課程を履修することを目的とした制度です。入学前の事前申請によって長期履修制度を活用することで、2年間の学費で、3年または4年間学ぶことができます。

▶ 授業時間割における工夫

授業は、平日の夜間時間帯や休暇中の集中講義期間にも開講しています。長期履修制度を活用する現職教員院生のために、3年間で科目がローテーションする時間割を編成しており、3年に一度は、必ず夜間時間帯に必修科目・選択科目が開講されるよう工夫をしています。長期履修制度を活用すれば、夜間時間帯の開講科目のみの履修によって3年間で修了することができます。また、教職研究科のみ夜間時間帯(6時限目)を18:30～20:00とするなど、現職教員院生の履修に配慮しています。

▶ 「教職専門研修」の履修に関する特例

一定期間の実務経験のある現職教員院生については、本人の申請と教職研究科での審査を経て、「教職専門研修」の一部の履修が免除されます。一部が免除される場合でも、勤務の中で見出した課題を大学院の学修と往還させ、教職研究科専任教員の指導のもとで、課題克服の方策を探究することで、高度な実践力を獲得することができます。なお、現職教員院生の「教職専門研修」(専門実習)は、勤務校での実施を基本としていますが、受け入れが可能な場合には、立命館の附属校などでも実施することができます。

教員の勤務経験年数	単位免除科目(単位数)	履修が必要な科目(単位数)
3年未満	なし	教職専門研修1(3単位)、教職専門研修3(4単位)、教職専門研修4(3単位)
3年以上7年未満	教職専門研修1(3単位)	教職専門研修3(4単位)、教職専門研修4(3単位)
7年以上	教職専門研修1(3単位)、教職専門研修3(4単位)	教職専門研修4(3単位)

※免除された単位数は修了に必要な単位数から減じます。

▶ 多彩な現職教員院生や学部新卒院生との学び合い

他の教職大学院にはない特色の1つは、京都府、京都市、滋賀県、大阪府、大阪市の各教育委員会、立命館の附属5校の連携協力によって設置されていることにあります。現職教員院生といっても、学校種や教科のみならず、勤務している自治体なども多様であるため、普段では、あまり接点を持つことができない現職教員と共に学ぶことができます。また、本研究科では、多彩な院生同士のピア・サポートを重視しており、様々な問題関心をもった現職教員院生と学部新卒院生との学び合いを通して、自らの課題を探究することができます。

▶ 夜間時間帯でも利用しやすい学修環境

朱雀キャンパスの「リサーチライブラリー」(図書館)は、日曜日や大学の休暇期間を除いて9時から22時まで開館しています。本学の他キャンパス図書館の蔵書も「リサーチライブラリー」に取り寄せて利用することができます。また「院生自習室」やPC、最新のICT機器を整備した「教職研究科共同研究室」などの学修スペースも夜間時間帯まで利用することができますので、大学院での授業終了後もキャンパス内で学修することができます。

教職研究科 概要

研究科名	教職研究科
専攻名	実践教育専攻
入学定員	35名
収容定員	70名
学位名称	教職修士(専門職)
専任教員数	13名(研究者教員7名、実務家教員6名)



入試情報・学費・奨学金制度

入試日程と入試方式

実施月	出願期間	試験日	入試方式
9月 入学試験	2022年 8月 4日(木)～ 8月25日(木)	2022年 9月11日(日)	一般入学試験 社会人入学試験 学内進学入学試験
11月 入学試験	2022年10月20日(木)～11月 2日(水)	2022年11月20日(日)※予備日11月27日(日)	
2月 入学試験	2023年 1月 6日(金)～ 1月19日(木)	2023年 2月 5日(日)※予備日 2月12日(日)	

※入試に関する情報の詳細は、必ず入学試験要項および立命館大学大学院入試情報サイトで確認してください。

なお、入学試験要項は立命館大学大学院入試情報サイト(<http://www.ritsumeai.ac.jp/gr/exam/point.html/>)よりダウンロードができます。

※上記の方式以外に立命館大学大学院教職研究科の協定校の学生を対象とした協定校入試を行います(9月、11月のみ実施)。

学費

	1年次		2年次
	立命館大学または 立命館アジア太平洋大学出身者	他大学出身者	
入学金	なし	200,000円	なし
授業料(春学期)	457,700円	457,700円	457,700円
授業料(秋学期)	457,700円	457,700円	457,700円
計	915,400円	1,115,400円	915,400円

(2022年4月現在)

奨学金制度

●立命館大学大学院1年次対象成績優秀者奨学金

教職研究科で実施する入学試験の合格者のうち、成績優秀者に給付します。支給対象者には入学試験の合否発表時に通知します。

●立命館大学大学院2年次対象成績優秀者奨学金

教職研究科の2年次(第3セメスター)在学生のうち、成績優秀者を対象に選考の上給付します。

学修環境

二条駅に隣接する朱雀キャンパスは、学びの拠点であると同時に生活の拠点でもあります。

自習室では院生にキャレル(個人学習ができるブース)が用意されており、キャンパスでの1日はそこから始まります。



教室・ゼミ教室

教職研究科の学生が全員で授業を受けられる大教室からコースごとの授業を行う小教室まで授業形態に合わせた教室となっています。小教室には、大型ディスプレイを設置しており模擬授業や、実習の報告会等を行う際に活用することができます。



院生自習室

院生専用の自習室を設置し、静かな環境の中で学修を進めることができます。



朱雀リサーチライブラリー

教育学、心理学をはじめ、学修に必要な図書や雑誌が配架されており、整った環境での自習が可能です。



教職研究科共同研究室

教職研究科専用の共同研究室です。PCや各種の学校用教科書等を整備しています。グループワークを実施したり、院生と教員が共に話し合うことができます。



教職研究科デジタルラボ

オンライン・コンテンツの撮影や編集、配信などができ、また電子ホワイトボードや電子黒板を整備しており、ICT教育の実践を行うことができます。



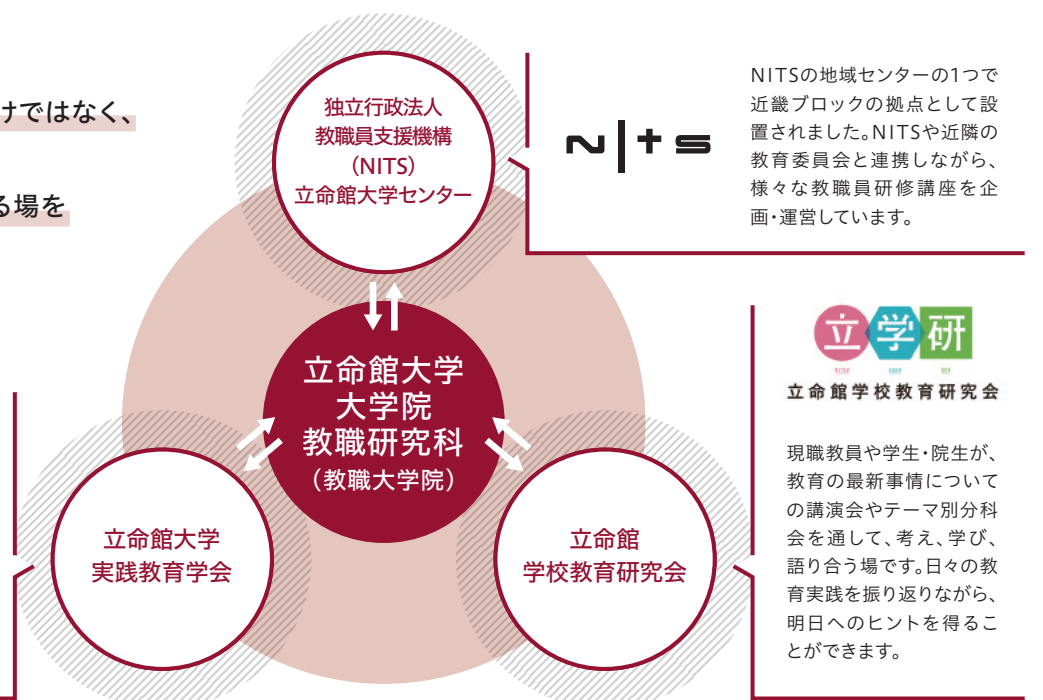
生協ラウンジ

生協ラウンジに隣接するショップコーナーでは食料品、文房具、書籍等を販売しています。

修了後の継続支援について

立命館大学では
教職研究科在学中だけではなく、
修了後も学び続け、
理論と実践を往還する場を
提供しています。

教職研究科の教員や修了生が中心に運営している学会で、研究大会には誰でも参加できます。大学内外で教職に関わり教育・研究・実践に携わっておられる方々と共に、幅広くつながりながら実践研究、交流を深めていきます。



立命館大学大学院 教職研究科 (教職大学院)

[お問い合わせ先]

立命館大学朱雀独立研究科事務室(教職研究科担当)

〒604-8520

京都市中京区西ノ京朱雀町1 立命館朱雀キャンパス

TEL 075-813-8269

Email kyoken-s@st.ritsumeai.ac.jp

最新情報はホームページで
CHECK!

▶ 立命館大学大学院教職研究科ホームページ
<http://www.ritsumeai.ac.jp/gspite/>



▶ 立命館大学大学院入試情報サイト
<http://www.ritsumeai.ac.jp/gr/>

▶ 紹介動画はこちらから!
<https://youtu.be/93YKgGD8x48>



[アクセス]

最寄り駅

- JR山陰本線「二条」駅下車 ——— 徒歩 約2分
- 京都市営地下鉄東西線「二条」駅下車 — 徒歩 約2分
- 阪急「大宮」駅下車 ——— 徒歩 約10分

所要時間

JR	大阪	東海道本線 約30分	京都	山陰本線 約6分	二条	徒歩 約2分	朱雀 キャンパス
阪急	大阪梅田	京都本線 約40分	大宮	徒歩 約10分			

